

平成26年度予算見積調書

課室名： 高校教育指導課

担当名： 未来を拓く学び推進担当

内線： 6625

(単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B43	未来を拓く「学び」推進事業			一般会計	教育費	教育総務費	教育連絡調整費	指導内容充実費	
事業期間	平成24年度～平成26年度	根拠法令	地方教育行政の組織及び運営に関する法律			戦略項目	06	時代に応え未来を拓く人材育成	
					分野施策	020101	確かな学力と自立する力の育成		
1	事業の概要 我が国の教育は旧態依然とした一方通行・知識獲得型授業によるものも多い。その結果、PISA調査に代表される21世紀に必要とされる学力・能力の育成において、世界のトップ層に遅れをとっている。 世界で将来、主体的に活躍できる人材を育成するため大学・産業界の教育拠点と連携し、コミュニケーション能力・問題解決能力・情報活用能力などを高める授業改革を目指す。 (1) 未来を拓く「学び」推進事業 4,685千円			5 事業説明 (1) 事業内容 ア 未来を拓く「学び」推進事業 4,685千円 (ア) 授業改善の研究及び実践(6月～12月) 大学及び企業との連携による授業改善のための研究活動及び授業実践を実施 全体研究会・教科別分科会・ICTプログラム研究会を開催し、教員の授業力向上を図る。 (イ) 研究・実践の成果の報告・普及促進(1～2月) 全体報告会で全県の教育関係者に成果を報告するなどにより、成果の普及促進を図る。 (2) 事業計画 ア 平成24年度 (ア) 県と大学と企業の三者による連携体制の発足 (イ) 関係校・教員の招集・選定、協働学習の研究実践の開始 イ 平成25年度 協働学習の研究・実践の発展及び成果の普及 ウ 平成26年度 3年間の研究・実践の集大成として成果発表、協働学習の定着・促進 (3) 事業効果 ア コミュニケーション能力、問題解決能力、情報活用能力など、21世紀を生きるのに必要な能力を育成している。 イ 年間20校の県立高校で教員が公開研究授業を実施し(平成25年度)、授業改善の動きが広まる。 ウ 新たな指導法による教材を15教科で作成し(平成25年度)、生徒のコミュニケーション能力・問題解決能力等を育成する教材を普及させる。 (4) 県民・民間活力、職員のマンパワーの活用、他団体との連携状況 ア 民間IT企業(インテル株式会社)と連携し、ICTを活用した授業案作成プログラムを導入 イ 大学(東京大学)と連携し、学習科学の知見を採り入れた協働学習の研究成果を授業案作りに活用					
2	事業主体及び負担区分 (県10/10)								
3	地方財政措置の状況 なし								
4	事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×1.6人=15,200千円								
				財 源 内 訳					
予算額								一般財源	前年との 対比
決定額	4,685							4,685	1,240
前年額	3,445							3,445	